

掲示板

植物標本作製講座(初級編)

月1回程度開催中!

植物の学術標本の作り方と、検索表を使った簡単な同定方法を学んでみませんか? 標本づくりに意欲的に取り組める方であれば、どなたでもご参加いただけます!

日時 平成27年9月2日(水) 午前10時から正午頃  
会場 なごや生物多様性センター 会議室(2階)  
講師 なごや生物多様性センター 中村 肇(名古屋環境局生物多様性専門員)  
定員 20名(応募多数の場合は抽選) 締切 8月21日(金)

詳しい内容や申込方法は、下記センターウェブサイトをご覧ください。



標本を寄贈いただきました

7月7日、今尾由美子様から、植物標本を寄贈いただきました。今後、センターにて整理し、収蔵します。ありがとうございました。

機関誌「なごやの生物多様性」第3巻投稿募集中

なごや生物多様性センターでは、地域で実践されている調査・保全活動等によって得られた、なごやの生物多様性に関する情報を正確に記録し広く発信するため機関誌を発行しています。現在、平成27年度発行予定の第3巻の投稿を募集しています。

【投稿資格】特にありません。市民、保全団体、専門家、行政に所属している方等、広く投稿者を求めます。

【投稿内容・区分】学術的知見を記した原著論文、調査や保全活動で得られた結果や知見を記した記録、報告および生物目録など幅広い内容の文章を募っています。詳しくは、下記センターウェブサイトから投稿規程をお読みいただき、「名古屋市および関係する地域における生物多様性」の情報を、ぜひご投稿ください。

締切  
平成27年  
8月31日



▲第2巻

センターウェブサイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/>

求ム! あなたの目撃情報!

なごや生物多様性保全活動協議会のデータベース部会では、名古屋市内にいる24種の生きものの情報を募集しています。一覧で紹介している生きものを見つけたら、デジタルカメラなどで撮影して、インターネットから登録してください。みなさんからの情報、お待ちしております。

協議会ウェブサイト

<http://www.bdnagoya.jp>

情報募集中!



情報を募集している種の一覧

哺乳類	鳥類	は虫類	両生類
アライグマ 特定	ツバメ	ニホンインガメ 希	ニホンアマガエル 希
タヌキ 希	イワツバメ	クサガメ 希	アズマヒキガエル 希
ハクビシン 外	コシアカツバメ 希	ニホンスッポン 希	
ヌートリア 特定	コアシサン 希	ミシシippアカミミガメ 外	
	ソウシチョウ 特定		
	コアシサン (撮影:村上修)		
魚類	昆虫類	植物	
サツキマス・アマゴ 希	ムネアカハラビロカマキリ 外	オオキンケイギク 特定	ニホンアマガエル (撮影:藤谷武史)
ニホンウナギ 希	ハラビロカマキリ 外	外来スイレン 外	
アユ 希	タイワンタケクマバチ 外	クマバチ	

レッドデータブックなごや2015掲載種: 希、特定外来生物: 特定、外来種: 外

活動紹介

中部蜘蛛懇談会

皆さんも是非一緒にクモ探しを!!  
「いつでも! どこでも!! だれでも!!!」が合言葉

中部蜘蛛懇談会の創立は1969年。当時、洞窟性の生き物を調査して楽しんでた数人の生物好きの集まりから進展。清水善夫さんが代表者となり懇談会を創設し今年で46年になります。

クモは世界中に約4万種、日本全国に約1,600種、愛知県内に570種、名古屋市内に336種が生息確認され、年間を通じてどこでも見られます。クモは生きた虫しが食べないため、地域の環境指標に最適であり、クモを調査する事で他の生き物の動向をも知ることができます。

4億年前から今日まで生き延びてきた小さな生き物から、多くの戦略と観察と生き方を学びたく思う人達の会です。現在の会員はこども会員(無料)を含め130名にも!

正会員、準会員は全国に及び、生物を専門とする先生から一般の虫好きの方たちまで、幅広く楽しんでいます。年間5回ほど、野外にてクモ観察会も開催しています。懇談会のHP(<http://ckumo.web.fc2.com/>)を見て、気軽に参加してみてください! 興味のある方は、是非この機会に参加して、身近な生き物に触れ合ってみてください。入会大歓迎です。事務局:柴田良成まで(電話:052-522-1920)



昨年のごども観察会の記念写真

クイズ 美しいクモの名前が判りますか? 写真と名前を線でつないでみましょう!

(いずれも昨年「平和公園くらしの森」にて観察)



- A シロオビトリノフンダマン
- B キアシハエトリ
- C アカイロトリノフンダマン
- D トリノフンダマン
- E キヨヒメグモ

(答えはページ左下)

「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト!

問い合わせ・申し込み先

発行:名古屋環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 (地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695  
E-mail [bdnagoya@kankyokyo.city.nagoya.lg.jp](mailto:bdnagoya@kankyokyo.city.nagoya.lg.jp)

- なごや生物多様性センターウェブサイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>
- なごや生物多様性センター Facebookページ (どなたでもご覧いただけます) <https://www.facebook.com/bdnagoya>
- 名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/>  検索
- なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>

ウェブサイトQRコード



このニュースレターは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

いのちがやくなごや

15号

平成27年7月

特集

レッドデータブックなごや2015

レッドデータブックってなに?

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

平成27年4月に最新版「レッドデータブックなごや2015」を公表しました。レッドデータブックってなに? レッドリストってどんなもの? など、「レッドデータブックなごや2015」について紹介します。また、前号(14号)に引き続き、名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物について、その一部をご紹介します。



ヤマカガシ (撮影:矢部 隆)



ニホンインガメ (撮影:矢部 隆)

CONTENTS

特集

レッドデータブックなごや2015 ..... P1~3  
レッドデータブックってなに?  
名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

TOPIC 名古屋市でも増え続けるミシシippアカミミガメ ..... P4  
掲示板 植物標本作製講座(初級編) ..... P5  
機関誌「なごやの生物多様性」第3巻投稿募集中 ..... P5  
求ム! あなたの目撃情報! ..... P5  
活動紹介 中部蜘蛛懇談会 ..... P6



アズマヒキガエル (撮影:藤谷武史)

# レッドデータブックなごや2015

本市では、平成24年～26年度にかけて名古屋市の野生動植物の生息・生育実態について調査を行い、平成27年4月に「レッドデータブックなごや2015」を公表しました。

名古屋市は市街化の進んだ都市ですが、東部の丘陵地域や河川敷、大規模な緑地などを中心に、今も様々な生物がすんでいます。そして、その中には、生息・生育環境の変化などの理由から、絶滅のおそれのある生きものもいます。

名古屋市では、どのくらいの野生生物が絶滅の危機に瀕しているのでしょうか？「レッドデータブックなごや2015」には、絶滅のおそれのある種として389種が掲載されました。掲載種数は5年前に発行した「レッドデータブックなごや2010ー2004年版補遺ー」と比較すると、44種増えています。

前号(14号)に引き続き、名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物について、その一部をご紹介します。

## 維管束植物

### オニバス

(2010) 絶滅  
(2015) 絶滅危惧IA類



(撮影:岸沢俊介)

池沼に生育する水草で、大きな葉を水面に浮かべます。昔から名古屋城の堀に生育することが知られていましたが、おそらく水の汚れにより1992年の記録を最後に消失し、「レッドデータブックなごや2010」では絶滅と判断されました。しかし2012年に市民からの情報提供により生育が再び確認され、2013年、2014年も個体数は少ないものの継続して生育が確認されました。底土中の埋土種子が発芽したものとされます。

### キスゲ

(2010) 絶滅危惧II類  
(2015) 絶滅危惧IA類

高原に多い草性植物です。夜間に黄色いユリに似た花を咲かせます。2004年当時は名古屋市内の2カ所で生育が確認されましたが、1カ所は土手の改修により絶滅し、他の1カ所でもわずかな個体数が残存するだけになりました。

### ミカワシンジュガヤ

(2010) 絶滅危惧IB類  
(2015) 絶滅

全国的にも減少傾向が著しい湿地性の植物です。名古屋市内では3カ所に生育していましたが、2カ所は土地造成等のために絶滅し、他の1カ所は遷移が進行して、最近確認できません。既に絶滅したと判断されます。

### ヒメビシ

(2015) 新規 絶滅危惧IA類

水のきれいなため池に生育する水草です。愛知県内では今まで豊田市の3カ所で生育が確認されているだけでした。名古屋市では古い記録はあるものの、標本は確認できませんでした。しかし、2014年の調査で名古屋城の堀にわずかに生育しているのが確認されました。

### ジュンサイ

(2010) 準絶滅危惧  
(2015) 絶滅危惧IA類

ため池に生育する水草です。2004年当時は名東区塚ノ杵池に多量に生育していましたが、外来のスイレンに圧迫されて減少し、改修工事後は全く見られなくなりました。埋土種子が残存していると思われるため、再度出現する可能性が残されていますが、現在のところ消失したままです。

### アズマヒキガエル

(2015) 新規 絶滅危惧II類



(撮影:藤谷武史)

主に東部の丘陵地に生息しており、公園や庭先などでも見られます。産卵シーズンになると多くの「ガマ合戦」が見られましたが、近年急激に産卵数が市内各地で激減しています。

## は虫類

### ニホンイシガメ

(2010) 準絶滅危惧  
(2015) 絶滅危惧II類



(撮影:矢部 隆)

比較的多くの生息地が確認されていますが、生息場所の環境の悪化や外来動物による捕食や生活への圧迫、近縁種の導入による遺伝子汚染により、危機的な個体群が増えており、個体数はかなり減っています。

### ニホンマムシ

(2015) 新規 情報不足



(撮影:矢部 隆)

良好な環境の里山にしか生息しません。2012年に初めて名古屋市守山区で正式に確認されました。市内ではニホンマムシにとって好適な生息地がそれほど見当たらず、個体数が多いとは考えられませんが、生息の実態はまだよく分かっていません。

### ヤマカガシ

(2010) 準絶滅危惧  
(2015) 絶滅危惧II類



(撮影:矢部 隆)

平地や丘陵地の水田や小川、湿地に好んで生息します。アズマヒキガエルやナゴヤダルマガエルなど、カエルを専門的に食べますが、市内のカエルの激減や生息場所である水辺や山地の植生の荒廃に伴い、生息が危ぶまれています。

### 生きものシンフォニー14号訂正について

14号に掲載されている「テジロハリゲコモリグモ」の写真に誤りがありました。正しくは、右の写真になります。お詫びして訂正します。



(撮影:緒方清人)

## 絶滅の危機を示す手がかりとして

レッドリストとレッドデータブックは、いずれも、危機にさらされている野生生物の現状を知る手がかりとなるものです。

### レッドリストとは?

絶滅のおそれのある野生生物のリストです。危機レベルに応じてカテゴリー(ランク)ごとに種名を掲載しています。

### レッドデータブックとは?

レッドリストに掲載された種ごとに生息・生育状況や減少要因などを解説したものです。

### どこで見られるの?

「レッドデータブックなごや2015」は市公式ウェブサイトから閲覧・ダウンロードすることができます。より詳しく知りたい方は、ぜひ市公式ウェブサイトをご覧ください。

▶▶ レッドデータブックなごや2015 検索

また、平成27年度中に、「レッドデータブックなごや2015」を名古屋市立図書館、名古屋市環境学習センター(エコパルなごや)に配架予定です。なお、販売は行いません。

## カテゴリー(ランク)

カテゴリー(ランク)	説明	ブック2015掲載種数	
		植物	動物
絶滅(EX)	名古屋市ですでに絶滅したと考えられる種	76種	25種
絶滅のおそれのある種(絶滅危惧種)	絶滅危惧IA類(CR)	49種	75種
	絶滅危惧IB類(EN)	58種	57種
	絶滅危惧II類(VU)	75種	75種
準絶滅危惧(NT)		53種	124種
情報不足(DD)	評価する情報が不足している種	0種	40種



## 名古屋市でも増え続けるミシシippアカミミガメ (生物多様性専門員 野呂達哉)

ミシシippアカミミガメ(以下「アカミミガメ」という。)は、子ガメが鮮やかな緑色をしていることから「ミドリガメ」の名で呼ばれています。原産国はアメリカ合衆国中南部ですが、ペットとして世界各国に輸出され、様々な国や地域に定着しました。日本ではペットショップやホームセンターで安価に入手できます。そのこともあってか、ペットとして飼われていた一部の個体は野外に捨てられ、その結果、日本各地のため池や河川で繁殖し、北海道南部、本州、四国、九州、小笠原諸島、琉球列島などに広く定着しています。

名古屋市内では、「日本カメ自然誌研究会」と「なごや生物多様性保全活動協議会」のメンバーが中心となってカメ類の生息調査を実施してきました。その結果、市内におけるアカミミガメの実態が徐々に明らかになってきました。市内では調査した地域のほとんどでアカミミガメが優占しているのに対し、日本固有種であるニホンイシガメは激減しており、早急の保全対策が必要な状況です。

アカミミガメは市内各地で繁殖して、都市域だけではなく、小幡緑地や猪高緑地といった自然度の高い地域でも繁殖しています。



産卵巣を掘るアカミミガメのメス

市内のアカミミガメの産卵は6月から8月にかけて行われます。1個体の産卵数はだいたい8~14個で、卵は深さ10cm程度のところに埋められています。



アカミミガメの卵

時にはタヌキなどの食肉類が卵を掘り出して食べてしまうようです。また、日射の強い場所や水没してしまう場所では卵は死んでしまいます。いくつもの苦難を乗り越えた卵は、その年の晩夏から秋頃に孵化し、子ガメは産卵巣に

留まります。土中で越冬した子ガメは、孵化した翌年の4月下旬から5月頃、土中から這い出し水辺へ向かいます。



水辺へ向かう子ガメ

水辺までの道のりも安全ではないようです。私たちの調査では、この時期、多くのアカミミガメの子ガメが死んでいるのを確認しました。ほとんどは甲羅の中身がない状態で水辺に転がっていました。状況から考えて、犯人はカラスである可能性が高いと考えていますが、真相は分かりません。水中に入った子ガメを発見するのはなかなか大変です。目視でアカミミガメの子ガメを探しても簡単には見つかりません。子ガメの派手な甲羅の模様は自然下では河床の色に見事に溶け込み、発見を非常に難しくさせています。



どこに子ガメがいるか分かりませんか?

ただし、これがいつも有効とは限らないようです。私たちはニホンスッポンの糞の中から多数のアカミミガメの子ガメの手足や甲羅のかけらを見つけています。このように、卵や子ガメの時期は天敵が多いアカミミガメですが、成長し成体になると天敵はほとんどいなくなります。天敵によって排除されない限り、寿命が長いアカミミガメの親は、長年にわたって卵を産み続けると考えられます。アカミミガメがこれだけ増加した背景には、ほとんど天敵がいらない成体の生存率の高さが関係しているのかもしれませんが。特に希少な自然が残る水域では、アカミミガメの成体の取り除きを継続し、個体数を抑えていく必要があるのではないのでしょうか。

